

スクールマネジメント実践報告書

53 美守小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	○自分で考え、仲間とともにによりよく判断して行動する子 ○「ふるさと三和」を愛する子
我が校の目指す子ども像	自ら進んで、よく考え、判断し行動する子



小中一貫教育の具体的な取組	
実現に向けた重点的な取組内容	我が校の取組
	中学校区の取組
	成果○と課題■
	成果○と課題■

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
<p>1, 2年生は、ヤギの飼育とネギの栽培を行った。ヤギは上越市の高等学校からお借りし、保護者の協力を得ながら学びの場を設定した。ネギづくりは地域の方に「ネギの先生」として協力を依頼し、土寄せや収穫など様々な場面でかかわりをもちながら進めた。</p> <p>5年生は米作りに挑戦した。地域の方に先生となっていただき、筋蒔きから苗植え、はさかけに至るまで協力していただいた。子どもたちの米を取り巻く課題についての意識が高まり、これからの自分たちを考える学びの糧となった。</p> <p>3, 4年生は、地域の水の環境に目を向けた。学校の周りにはたくさんのため池や谷地があり、人々の歴史に深くかかわり、大切にされてきたこと、水をめぐる多くの課題を乗り越えてきたことなどを知る機会となった。</p> <p>6年生は防災・福祉の活動に関心をもち、地域に住む方々を先生としてお招きし、実際に体験活動を行うなどして学びを深めた。</p>	1, 2年 生活科	畑で野菜作り、ヤギの飼育
	3, 4年	水と環境
	5年	米作り
	6年	防災・福祉
	学校運営協議会の評価	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった
<p>・感染症対策で地域と交流を深める機会が減ってしまい、心配したが、それぞれの学年が工夫して取り組んでいることが分かり、良いと感じた。</p> <p>・地域を巻き込んだ取り組みは地域への愛情にもつながるので、ぜひ続けてほしい。</p>	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
		当てはまらない

スクールのマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	2人	保護者	2人	住民	6人	その他	2人	合計	12人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回 ()	2学期	1回 (1)	3学期	1回 ()	合計	3回 (1)
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	0回 ()	2学期	0回 ()	3学期	0回 ()	合計	0回 ()

活動の内容	成果○と課題■
<p>(1学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の組織, 教育内容について 学校教育活動への支援 (これまでの例) 学校教育協力関係者の紹介・斡旋 学習支援について <p>(2学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> どんぐり祭来賓参加 学習参観 前期活動報告 前期学校評価結果の意見集約 <p>(3学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期学校評価結果への意見集約 次年度の教育活動に向けた意見集約 	<p>○感染症が心配されたが、2学期に学習参観やどんぐり祭などの行事にお越しいただき、教育活動の様子を見ていただくことができた。</p> <p>○協議会では、委員の皆様から多くの意見をいただいた。その意見を基に、教育活動を整理することができた。</p> <p>■昨年度と比較し、教育活動に触れていただく機会は増えた。今後は、より学びの様子や重点的な取組など、学校運営の実際を理解していただけるよう、発信・紹介の仕方を工夫していく必要がある。</p>

総括
<p>第1回の協議会では、感染症等で思うような活動ができない環境にありながらも積極的に地域とかかわり、特性を生かした活動が進めてほしいといった要望が出た。これを受け、今年度の活動における地域の人材の活用の在り方を見直し、すべての学年で地域の方々を講師とする機会を設定することができた。第2回の協議会では、委員の方々から学習を参観していただく機会を設けることができた。地域を巻き込んだ活動が地域への愛着をもつことにつながることから、今後さらに活動の幅を広げてほしいとの意見をいただいた。また、複式のメリットを生かした教育活動を展開してほしいとの意見をいただいた。</p>

〈活動写真〉



○ネギの土寄せ 「ネギの先生」として地域の方々を講師として迎え、苗の植え方や土寄せの仕方などについて教えていただいた。野菜の栽培について関心が高まり、成長の様子を詳細に記録したり、課題を見つけ、主体的に調べたりする姿が見られた。

○脱穀・はさかけ 筋蒔きや田植え、雑草取り、稲刈り、脱穀など、すべての稲づくりの行程を地域の方から教わりながら進めた。米ができるまで非常に多くの作業があることを知り、一つ一つに愛情を込めて行うことの大切さを学んだ。



○高齢者疑似体験・車椅子体験 福祉施設の方を講師に招き、重りのついた疑似体験装置を身に着け、校舎を歩いたり、車椅子に乗る体験を行ったりした。実感を伴った学びにより、高齢者との関わり方など、今後の自分の生き方をとらえ直すきっかけにつながった。